

《2023年10月（通算324回）公開サロン報告》

ラグビーワールドカップ2023 フランスの旅

嶋崎雅規（国際武道大学） 徳田仁（株セリエ）

【日時】2023年10月19日（木）19:00～21:00

（終了後は近くの中華料理屋「斉味齋」で懇親会（～23:00過ぎ）

【会場】筑波大学附属高校 3F 会議室およびオンライン（Zoom）

【テーマ】ラグビーワールドカップ2023 フランスの旅

【演者】嶋崎雅規（国際武道大学）、徳田仁（株セリエ）

【参加者（サロンファミリー）12名】★はNPO会員

- ・対面 … 小針昇平（筑波大学附属中学校保体科）、★嶋崎雅規（国際武道大学）、徳田仁（株セリエ）、名方幸彦（文京ラグビースクール）、★中塚義実（筑波大学附属高校保体科/NPOサロン2002理事長）

- ・オンライン … ★安藤裕一（GMSS ヒューマンラボ）、宇留間範昭（会社員）、

★熊谷建志（会社員/NPOサロン2002理事）、★小池靖（在さいたま市サッカースポーツ少年団指導者/NPOサロン2002監事）、小松章一（スポーツボランティア）、★関秀忠（弁護士/NPOサロン2002理事）、★茅野英一（かながわクラブ/NPOサロン2002監事）

【参加者（サロンファミリー外）1名】

- ・対面 … 松本英樹（筑波大学附属高校保体科）

【報告書作成者】嶋崎雅規、徳田仁

【目次】

1. フランスに行ってきました！（嶋崎雅規）
 - (1) ラグビーワールドカップ2023 フランス大会概要
 - (2) 今回の渡仏スケジュール
 - (3) 開幕戦&チリ戦レポート
2. フランス+ドイツ&ベルギーの旅（徳田仁）
 - (1) フランスの気温
 - (2) ラグビーワールドカップ vs FIFA ワールドカップ
 - (3) フランス2023ではTGVの増便なし
 - (4) HEINEKEN から ASAHI へ
 - (5) ESSAI（エッセイ）？
 - (6) サッカーとラグビーを同時に見る
3. プールステージ・準々決勝の結果&優勝予想（嶋崎雅規）
 - (1) プールステージを振り返って
 - (2) 準々決勝の結果から
 - (3) 決勝予想
4. ワールドカップ以降の日本ラグビー（嶋崎雅規）

【キーワード】

ラグビーワールドカップ、RWC2023、フランス、観戦ツアー、株セリエ、FIFA ワールドカップ、リーグワン、嶋崎雅規、徳田仁

1. フランスに行ってきました！ (嶋崎雅規)

(1) ラグビーワールドカップ 2023 フランス大会概要

まずは大会の概要です。大会期間は、2023年9月8日(金)から10月28日(土)の51日間です。基本的に中5日以上の間隔を開けて試合を行うので、このように長期間の開催となります。15年のイングランド大会では、日本チームは南アフリカを破った後、中3日でスコットランドと対戦し敗れました。中3日ではリカバリーできません。今大会では、このような不公平が起こらないように大会期間を延ばしました。

出場は20チーム、5チームずつ4プールに分かれて総当たり戦を行い、上位2チームがノックアウトステージに勝ち上がります。ノックアウトステージは、8チームが準々決勝、準決勝、3位決定戦、決勝戦と戦い順位を決定します。全部で48試合が行われます。

試合は、サンドニ(パリ)、リール、リヨン、サンテティエヌ、ニース、マルセイユ、トゥールーズ、ボルドー、ナントの9都市で行われます。開幕戦と決勝、3位決定戦、準決勝は、収容8万人のスタッド・ド・フランス(サンドニ)、準々決勝は収容6万8千人のスタッド・ド・マルセイユとスタッド・ド・フランスで2試合ずつ行われます。



(2) 今回の渡仏スケジュール

日	時刻	内容
9.7(木)	00:05	羽田発 ドバイ経由でパリへ
9.8(金)	午後	サンドニ観光
	19:00	開会式、21:15 フランス vs ニュージーランド (スタッド・ド・フランス)
9.9(土)	午前	パリ観光
	16:00	オーストラリア vs ジョージア (スタッド・ド・フランス)
9.10(日)		空路トゥールーズへ
	13:00	日本 vs チリ (スタジアム・ド・トゥールーズ)
		TGVでパリへ
9.11(月)	15:35	パリ発 ドバイ経由で羽田へ
9.12(火)	22:35	羽田着

今回の渡仏スケジュールは左記の通りです。パリまでは羽田発ドバイ経由のフライトで行きます。4泊6日で、開幕戦・フランス vs ニュージーランド、オーストラリア vs ジョージア、そしてトゥールーズに移動して日本 vs チリの3試合を観戦するという強行スケジュールです。観光は、ほとんどありません。現地では高校ラグビー部の後輩夫妻とそのお姉さん(サンドニ在住)と一部行動を共にします。もちろんメインは徳田さんと行動することになります。

(3) 開幕戦&チリ戦観戦報告

開会式と開幕戦が行われるスタッド・ド・フランスは、1998年のFIFAワールドカップのために建設された国立競技場です。収容人数は、80,032人。サンドニは、どちらかというと貧しい方が多く住んでいて治安が悪かったようです。そこで、大規模なスタジアムを建設し、治安の改善に取り組んだということです。



右は開会式直前のスタジアム前の様子です。レ・ブルーのサポーターたちはすでにお祭り騒ぎです。

開会式では、フランス人俳優のジャン・デュジャルダン、俳優のフィリップ・ラショー、シェフのギー・サヴォワ、プリマ・バレリーナのアリス・ルナヴァンなどの豪華キャストがライブ演技でフランスとその文化を披露しました。さらに33人以上のゲストと、フランスの専門知識を代表する著名人がショーに参加したということです。フランス文化に明るくない私には登場人物もよくわかりませんでした。



フランスの人たちは大盛り上がりでした。しかし、なぜかマクロン大統領とエディ・ジョーンズ氏には大ブーイングが浴びせられていました。

開会式の様子を、日刊スポーツは以下のように伝えています。

フランスの文化や街並みをイメージした踊りやラグビーの要素を織り込んだパフォーマンスが繰り広げられ、終盤では、フランスを象徴するエッフェル塔の模型が、下から立ち上がるような形でグラウンドのど真ん中に登場。頂上に向かってワイヤを付けた出演者の1人が飛んでいくパフォーマンスが披露された後、塔の頂上にW杯の優勝カップ「ウェブ・エリス・カップ」も登場。

「日刊スポーツ」2023.9.9

〔開会式と開幕戦のダイジェスト映像〕

開幕戦のフランス vs ニュージーランドは素晴らしい試合でした。とにかくスタンドの熱気がすさまじい。「Allez Les Blues」の大合唱に隣の人声も聞こえないほど。そんな中で先制したのはAll Blacks。開始2分でWTBマーク・テレアがインゴールに飛び込むと、紳士的なフランスサポーターからも拍手が。その後、お互いにPGを決め、前半は9対8とフランスがリードして折り返します。しかし、後半All Blacksが逆転したあたりからは、サポーターもヒートアップ。ゴールキックにブーイングの声も聞かれるようになりました。その後フランスが2トライ、1ゴール、2PGと得点を重ね、27対12とホームのフランスが勝利しました。

個人的な印象ですが、この日のフランスはエンジン全開、何が何でも勝ちたいという気迫がみなぎっていました。それに対して、All Blacksはまだまだ余裕あり。本番はノックアウトステージという雰囲気、余力を残している感じでした。しかし、この日のフランスチームとスタジアムの熱狂から、この地でフランスに勝つのは無理かと思わせるような雰囲気でした。何はともあれ、あの熱気の中で観戦できただけでもフランスまで来た甲斐があったというものです。



トゥールーズへは飛行機で向かいました。空港に到着すると右の写真のように日本語でお出迎えが。トゥールーズの街は非常に親日的(?)で、試合後 JAPAN のジャージを着て歩いていると通りすがりの人や車の中から、「おめでとう」と声をかけてくる人が多数見受けられました。

スタッド・ド・トゥールーズは、1938年の FIFA ワールドカップ開催地として建設されました。その後 1998年の FIFA ワールドカップの際、そして UEFA ユーロ 2016でも開催会場となり、その都度改装されています。収容人数は、33,103人。ちょうどよいサイズのスタジアムです。ピッチとスタンドも近く、とても観戦しやすいスタジアムという印象を持ちました。

日本サポーターとチリ・サポーターの数は半々かわずかに日本人が多かったか。現地の人も JAPAN のジャージを着て応援してくれている人が多数見受けられました。チリ・サポーターの応援も元気です。「CHI-CHI-CHI、LE-LE-LE、VIVA CHILE!!」(チーチーチー！レーレーレー！ビバチレ!)の掛け声で必死の応援です。



〔日本対チリ戦のダイジェスト映像〕

試合は、チリに先制されるも、ファカタバ×2、ナイカブラ、リーチ、中村、ディアンズが6トライを挙げ、松田力也がすべてのゴールを決め、42対12と快勝。特に、ファカタバがタッチ際でショートパントを蹴り、それをキャッチしてそのままトライしたプレーは秀逸でした。アメリカを破って初出場のチリは、かなり強かったです。特に接点の強さが目立ちました。国際試合の経験値が上がれば、さらに力をつけてくるものと予想されます。

しかし、13:00キックオフの試合はとにかく暑い。当日の気温は35℃くらい。多くの選手たちが後半に足がつかっていました。スタンドも、我々の座ったメインスタンドは日陰だったのでよかったのですが、バックスタンド・日なたでの観戦はか



なり厳しかったものと思います。日本での放送時間（この日は20:00から生中継）を考えるとちょうどよいのですが、選手のコンディションを考えると問題ありでしょう。

試合後、JAPAN フィフティーンは場内を一周、スタンドのサポーターの声援に応えていました。



2. フランス+ドイツ&ベルギーの旅 (徳田仁)

(1) フランスの気温 (ワールドカップ・スタート時)

今回の私の滞在期間は9月6日～19日の14日間です。出発前の情報では「フランスは秋めいている」でした。しかし、9月上旬からは暑さがぶり返し、パリ市は9月8日から熱波警戒計画のレベル3を発動しました。

右はパリの気温の表です。8月下旬は確かに秋の気温でしたが、ワールドカップ開幕時は夏に戻っていました。

	27	16.1	22.6	11.5	1.0
	28	16.1	21.3	12.6	2.2
	29	16.3	21.3	12.1	0.2
	30	16.6	21.9	12.4	0.0
	31	15.9	18.8	13.5	3.0
9	1	19.7	23.5	16.8	0.2
	2	22.3	30.3	14.8	0.0
	3	24.7	31.6	18.6	0.0
	4	24.4	31.6	18.2	0.0
	5	25.8	34.1	18.2	0.0
	6	25.9	33.9	18.3	0.0
	7	25.0	32.8	17.1	0.0
	8	26.3	34.8	18.0	0.0
	9	27.3	35.4	19.5	0.0
	10	27.0	34.9	18.4	0.0
	11	23.5	28.1	20.2	0.0
	12	19.5	20.5	18.0	5.2
	13	18.8	23.5	16.8	0.0

(2) ラグビーワールドカップ vs FIFA ワールドカップ

◆ツアーの作り方

グループステージ (プールステージ) 観戦に必要な日数は、サッカーで9日間 (3試合)、ラグビーで29日間 (4試合) と、設定するコースのパターンが全く違います。

ちなみに、FIFA ワールドカップ・カタール大会の開催期間は29日間でした。

ラグビーワールドカップ・フランス大会では、旅行期間の関係から日本戦1試合+他1試合というコースの申込みが一番多かったです。

販売のタイミングは1年以上前からと、早いのが特徴です。大手 (STH、日本旅行、東武トップツアー) はカタールワールドカップ開催の頃にラグビーワールドカップを販売していました。

(弊社は5月・・・4ヶ月前から)

◆チケットとセキュリティ

FIFA がチケットセキュリティ強化のためにモバイルチケットを導入したのに対して、ラグビーはオールスタイル。ほぼPDFをプリントしたチケット (Eチケット) を持って入場する形でした。セキュリティも甘く、バッグはA4サイズまでとアナウンスされていましたが、大きめのバックパックでも持ち込めていたし、X線チェックもなく、カバンを開けて見せるとOKと言われました。

ラグビーファンは性善説ルールでも、きつといままで問題を起こさなかったのでしょうか。

◆グッズ、マッチデープログラム、マッチデーカップ

マッチデープログラム (15€) が毎試合販売されていました。また、カップはスタジアムごとに作られていました。



(3) フランス 2023 では TGV の増便なし

2023年6月18日、フランスのオリビア・グREGワール観光相は、フランスが長らく迎え入れてきた旅行者の数を減らす戦略をとることを発表しました。この政策について、「環境、地元の人々の生活の質、観光客の体験」に対する脅威に対応するものであると述べています。

コロナ禍以降、フランスはオーバーツーリズムがより顕著となり、特に観光地が、時間も金もあまり使わない観光客であふれかえっていることが問題になっています。またその結果、地域社会が観光業からの恩恵を十分に受けられず、経済力を失っていることも問題です。このような政府の方針により、SNCF（フランス国有鉄道）は臨時便などの増発を行わなかったと思われます。

EURO2016 フランス大会では、非常事態宣言下の開催にも関わらず、多くの TGV（高速鉄道）が増発され、パリからニースやマルセイユへの日帰り（復路夜行）観戦が可能でした。

今大会の日本の初戦「日本 vs チリ」は、9/10（日）13:00 キックオフ。平日なら間に合うのですが、日曜日のダイヤでは間に合いません。当初ツアーは、モンパルナス駅周辺に宿泊して TGV でトゥールーズを日帰り観戦する企画でしたが、午前中の便の増発がないことがわかり、最終的にパリ〜トゥールーズ間は国内線を利用することになりました。

(4) Heineken から ASAHI へ

スタジアムでもビールは問題なく飲めるし、売っています（8€）。

最初にスタジアムでアサヒの看板を見たとき、スーパー・ドライをもじって「スーパー・トライ」と表示しているのだと思い、面白いと感じたのですが、実はそれには裏があったのです。

看板をよく見ると「Asahi」ではなく「Aaah!」。つまり「あー！」という表示だったのです!!

調べてみると、アサヒグループジャパンの広報が、「フォントは同じですが、社名ではありません」とコメントしていました。なぜそうする必要があるのでしょうか？ 1991年にフランスで制定された「アルコール広告規制法（エヴァン法）」によって、商品名を掲示できないからなのです。

注）エヴァン法＝依存症などの健康被害を重くみて、スポーツとアルコールを結び付ける広告は一切禁止となった。



(5) E s s a i (エッセイ) ?

その意味はを「コトバンク」でみると…

(1) 試用：（性能などの）試験、テスト、実験。

(2) 試み

(3) エッセイ：随筆、試論、試作。

(4) 【スポーツ】①（陸上競技の）試技. ②（ラグビーの）トライ。

そもそもラグビーのトライをなぜトライというか、サロンファミリーの方々にご存知だと思うので説明は割愛します。

トライは1886年に1点と定められ、1893年まで2点、3点と増えていきました。4点になったのは1971年で、現行の5点になったのは1992年です。






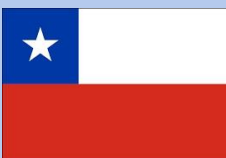



フランスのラグビーは1870年代初めにイギリス人によって持ち込まれ、1892年に行われた「ラシン92 vs スタッド・フランセ」のレフェリーを、近代五輪の創始者である「ピエール・ド・クーベルタン男爵」が務めたという記録もあります。トライのときスタジアムのモニターに英語の「TRY」と一緒に表示されるのがフランス語の「ESSAI」・・・エッサイではなくエッセイと発音するそうです。



サッカーとラグビーを同時に見る

無謀だという声もあったがまんまと成功！

↑
インターバル
約4時間
↓

 <p>JAPAN SAMURAI BLUE</p>	<p>9月9日(土) ヴォルフスブルグ 20:45</p>		<p>VS.</p>	
 <p>BRAVE BLOSSOMS</p>	<p>9月10日(日) トゥールーズ 13:00</p>		<p>VS.</p>	
 <p>JAPAN SAMURAI BLUE</p>	<p>9月12日(火) ヘンク 14:20</p>		<p>VS.</p>	

4日間で3試合を観戦する

A : 「開幕戦+ 日本VSチリ観戦」と「日本VSチリ観戦」のコース

9/7 (木)~9/9 (土) にパリ着

9/10 (日) 朝4:00にパリのホテルを出発、シャルルドゴール空港

07:40発/トゥールーズ空港08:40着 到着後、スタジアムへ。

日本VSチリ (13:00) 観戦 試合後TGVでパリへ

B : 「ドイツVS日本」+「日本VSチリ」観戦コース

9/9 (土) ハンブルグ空港13:35着、ハンノーファーへ移動。ハンノーファーのホテルにチェックイン後、ヴォルフスブルグへ。ドイツVS日本 (20:45) 観戦 試合後列車でハンノーファーへ

9/10 (日) 朝3:30にハンノーファーのホテルを出発、ハンノーファー空港6:00発
～フランクフルト経由～トゥールーズ空港09:35着 到着後、荷物を駅前に預けてからスタジアムへ。試合後TGVでパリへ

C : 「ドイツVS日本」+「日本VSチリ」+「日本VSTルコ」観戦コース

・・・Bコースに続けて

9/11 (月) 朝10:30にパリのホテルを出発、北駅 12:51発～THA～プリユセル駅 14:17着



3. プールステージ・準々決勝の結果&優勝予想 (嶋崎雅規)

(1) プールステージを振り返って

順位	チーム	勝点	勝	敗	分	得点(トライ)	失点(トライ)
1	イングランド	18	4	0	0	150(17)	39(3)
2	アルゼンチン	14	3	1	0	127(15)	69(5)
3	日本	9	2	2	0	109(12)	107(14)
4	サモア	7	1	3	0	92(11)	75(7)
5	チリ	0	0	4	0	27(4)	215(30)

【勝点】 勝ち:4 負け:0 引き分け:2 トライ数が4以上:1 7点差以内で敗戦:1

日本代表の戦いを振り返ってみましょう。

プールステージでは初戦でチリに完勝。サモアにも競り勝ちましたが、イングランドとアルゼンチンには完敗でした。

敗因はいろいろ考えられると思います。33人の登録メンバーのうち、ハラシリ、垣永、堀越、ガンター、小倉の5選手は一度も出場する機会がありませんでした。一方、プール1位のイングランドは、4試合すべてに出場したのは8名だけ。出場機会のなかった選手は一人もいません。2位のアルゼンチンは11人が4試合すべてに出場していますが、全試合に先発して選手は2人だけです。もちろん出場機会のなかった選手はいません。それに対して日本は、松島ら8人が4試合すべてに先発出場。FW8人に限って言えば、初戦以外の3試合は、すべて同じ8人が先発出場しました。週に1試合とはいえ強度の高い試合が続くわけで、疲労の蓄積は想像に難くありません。現にラスト20分になるとチームとしてのパフォーマンスが下がっていたように思います。

このラスト20分の戦いが、今の日本チームの課題でしょう。次のワールドカップに向けては、先発の15人だけでなく、入替で入る選手の力を上げること、登録メンバーの誰が出場しても同等のパフォーマンスを発揮できるように選手層を厚くすることが課題といえるでしょう。相手によっては先発メンバーをガラッと変えられるようになることが必要なのです。

他のプールについても見てみましょう。

まずはプールAです。こちらは順当にフランス、ニュージーランドの2チームが勝ち上がりました。ただし、開幕戦でフランスがニュージーランドを下し優勝に一步近づいたという感じでしょうか。しかし、ニュージーランドもここから力を発揮してくることでしょう。

順位	チーム	勝点	勝	敗	分	得点(トライ)	失点(トライ)
1	フランス	18	4	0	0	210(27)	32(5)
2	ニュージーランド	15	3	1	0	253(38)	47(4)
3	イタリア	10	2	2	0	114(15)	181(25)
4	ウルグアイ	5	1	3	0	65(9)	164(21)
5	ナミビア	0	0	4	0	37(3)	255(37)

【勝点】 勝ち:4 負け:0 引き分け:2 トライ数が4以上:1 7点差以内で敗戦:1

プールマッチ	(2勝2敗 PTS9)
■ 日本 ● 42-12	チリ
■ 日本 ● 12-34	イングランド
■ 日本 ● 28-22	サモア
■ 日本 ● 27-39	アルゼンチン

26

福垣啓太	クレイグ・ミラー	シオネ・ハラシリ	具 智元
垣永真之介	ヴァル アサエリ愛	堀江翔太	坂手淳史
堀越康介	サウマキ アマナキ	ワーナー・ディアンズ	
ジャック・コーネルセン	アマト・ファカタバ	シン・ガンター	
下川甲嗣	姫野和樹	福井翔太	ピーター・ラフスカフニ
リーチ マイケル	齋藤直人	流 大	福田健太
小倉順平	山中亮平	李 承信	松田力也
中村亮士	ディラン・ライリー	ジョネ・ナイカブラ	長田智希
シオサイア・フィフィタ	レメキ	ロマノ ラヴァ	松島幸太郎

33

27

■ イングランド(1位=4勝0敗)=④8人③15人②4人①6人①なし
■ アルゼンチン(2位=3勝1敗)=④11人③11人②4人①7人①なし
■ 日本(3位=2勝2敗)=④18人③4人②2人①4人①5人
■ 松島ら8人は4試合すべてスタメン
■ FW8人は最後の3試合同じ8人がスタメン
■ アルゼンチンは全試合に先発した選手は2人だけ

ラスト20分の戦い

28

プールBです。こちらにもランキング1位のアイルランドと3位の南アフリカ順当に勝ち上がりました。スコットランドも健闘したのですが、入ったプールが悪かったようです。

プールCではウェールズが全勝で勝ち上がりましたが、オーストラリアはフィジーに敗れ、史上初のプールステージ敗退となりました。エディ・ジョーンズ H.C.の責任問題に発展しています。また、ポルトガルがフィジーを破り、ワールドカップ初勝利を挙げる大健闘を見せました。

プールステージでは、北半球のチームが好成績をあげました。プールAはフランス、プールBはアイルランド、プールCはウェールズ、プールDはイングランドと、いずれも北半球のチームが1位通過をしました。

(2) 準々決勝を終わって

プールステージの結果により、ノックアウトステージの組み合わせが右のように決まりました。ここで問題なのは、世界ランキング1位のアイルランドと4位のニュージーランドが、2位のフランスと3位の南アフリカが、それぞれBプールの1位とAプールの2位、Aプールの1位とBプールの2位という形で、準々決勝で当たってしまうことです。なぜこのようなことが起こるかという、プールステージのドローが

約3年前に行われるからです。そのときのランキング1~4位と5~8位は、それぞれ別のプールになるのですが、3年もすれば勢力図も変わります。そこでこのようなことが起こりました。これについては統括団体のワールドラグビーも問題視しており、今後は改善されるものと思われます。

準々決勝の結果は右の通りです。南アフリカ、ニュージーランド、アルゼンチンの南半球3カ国と、北半球からイングランドだけがベスト4に進出しました。イングランド以外はすべてプール2位のチームです。開催国のフランスは、プールステージの好調さから初優勝が期待されましたが、惜しくも1点差で敗退となりました。フランス国民の落胆ぶりがうかがわれます。またアイルランドはまたしてもベスト8の壁。8度目の挑戦も4点差で、惜しくも敗退となりました。

それでは注目のカード、アイルランド対ニュージーランドの一戦を振り返ってみましょう。

ラグビーワールドカッププールB 順位表

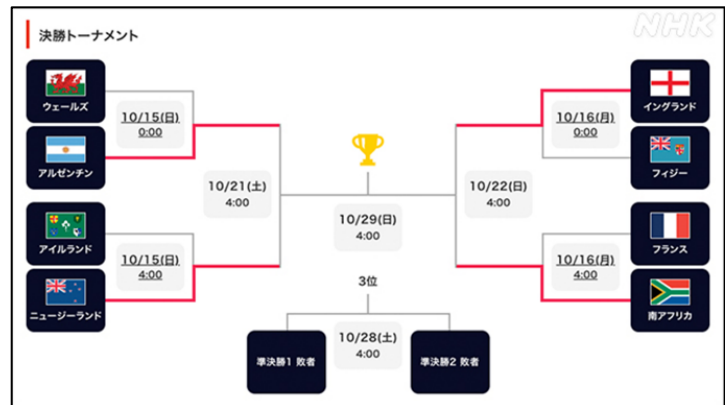
	勝点	勝	敗	分	得点(トライ)	失点(対トライ)
1 アイルランド	19	4	0	0	190(27)	46(5)
2 南アフリカ	15	3	1	0	151(22)	34(4)
3 スコットランド	10	2	2	0	146(21)	71(10)
4 トンガ	0	1	3	0	96(13)	177(25)
5 ルーマニア	0	0	4	0	32(4)	287(36)

【勝点】 勝ち:4 負け:0 引き分け:2 トライ数が4以上:1 7点差以内で敗戦:1

ラグビーワールドカッププールC 順位表

	勝点	勝	敗	分	得点(トライ)	失点(対トライ)
1 ウェールズ	19	4	0	0	143(17)	59(8)
2 フィジー	11	2	2	0	88(9)	83(9)
3 オーストラリア	11	2	2	0	90(11)	91(8)
4 ポルトガル	6	1	2	1	64(8)	103(13)
5 ジョージア	3	0	3	1	64(7)	113(14)

【勝点】 勝ち:4 負け:0 引き分け:2 トライ数が4以上:1 7点差以内で敗戦:1



準々決勝では南半球が...

- ウェールズ(7位) 17-29 **アルゼンチン(8位)**
- **アイルランド(1位)** 24-28 **ニュージーランド(4位)**
- **イングランド(6位)** 30-24 **フィジー(10位)**
- **フランス(2位)** 28-29 **南アフリカ(3位)**

- ✓ アイルランドにベスト8の壁・8度目の挑戦も...
- ✓ 開催国フランス、初優勝ならず

【アイルランド対ニュージーランドの試合のハイライト動画】

スタッツを見ておわかりのとおり、この試合ではテリトリーもポゼッションも50%以上と、アイルランドがゲームを支配していました。ボールを運んだ距離やゲインラインを超えた回数、パスの数、ラックからの球出し、すべてにおいてアイルランドが上回っています。おまけにニュージーランドは2度のシンビンを食らっています。それでも勝ちきれなかったのは、ニュージーランドのディフェンス力でしょうか。

28-24で迎えた後半31分、アイルランドはゴール前のラインアウト・モールを押し込み、ニュージーランドのゴールラインを越え、あわや逆転トライかと思われました。しかし密集の中でジョーディー・バレットが体を入れてボールに絡み、相手にグラウンディングをさせずトライを免れました。最後のアイルランドの怒濤の攻撃はすさまじいものでした。37フェイズも攻撃を繰り返し、ニュージーランドのゴールラインに迫りました。ニュージーランドはこれを守り切って勝利を勝ち取りました。長年ラグビーを見ている私も、37フェイズもミスなく攻撃が続くことや、それを反則せずに切り切る場面は初めて見ました。

次に、フランス対南アフリカの一戦を振り返ってみましょう。

〔フランス対南アフリカの試合のハイライト動画〕

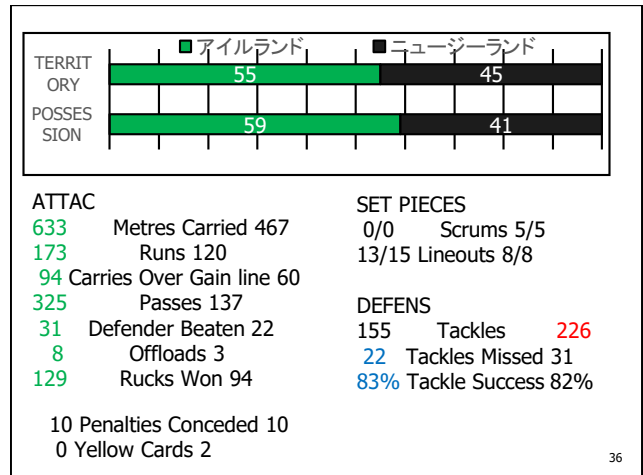
こちらもスタッツを見てわかるとおり、テリトリーもポゼッションも60%以上と、完全にフランスがゲームを支配していました。ボールを運んだ距離やゲインラインを越えた回数、パスの数、ラックからの球出し、すべてにおいてフランスが上回っています。おまけに南アフリカはシンビンを1度食らっています。唯一フランスのスクラムは5/9と不安定でした。

勝敗を分けたのは前半22分。フランスはSHデュポンのクイック・リスタートで、パスをもらったHOモヴァカのトライで12-12の同点に追いつきます。その後、トマ・ラモスが狙ったコンバージョンキックを南アフリカのチェスリン・コルビが猛然とダッシュしてキックをチャージ、フランスのリードを許しませんでした。このレベルの試合でゴールキックをチャージするシーンは見たことがありません。終わってみれば1点差の勝利です。コルビは、直後の26分にトライを挙げます。南アフリカは、堅い守りとコルビ、アレンゼの両ウイングの一発でトライを取り切る力で勝利をもぎ取りました。

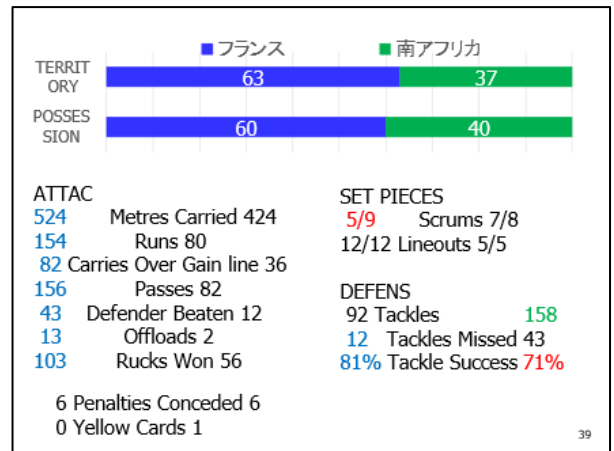
(3) 決勝予想

準決勝は終わっていませんが、決勝のカードはニュージーランド対南アフリカでしょう。

注目のポイントは、南アフリカの強固なディフェンスです。ニュージーランドは、SHアーロン・スミスからの背後へのキックを再獲得できれば勝機も生まれるでしょう。アーロン・スミスとファフ・



36



39

デクラークの SH 対決にも注目です。また、それぞれのインパクトプレーヤーにも注目してみましょう。ニュージーランドでは最多キャップ数 149 を誇るサム・ホワイトロックに、南アフリカでは 180cm・95kg とこのクラスでは小柄ながら得意のジャッカルを連発するクワッガ・スミスにも注目です。南アフリカでは、⑪コルビ、⑭アレンゼの決定力にも目が離せません。

いずれにしても、ロースコアになれば南アフリカ、点の取り合いになればニュージーランドが有利と思われます。現状では、南アフリカの強固なディフェンスを破ることは難しいと考え、南アフリカの優勝を予想します。

4. ワールドカップ以降の日本のラグビー（嶋崎雅規）

さて、ワールドカップが終わると、今大会で活躍した有名選手たちが、12月開幕のリーグワンに続々とやってきます。

まずは、トヨタウェルヴリッツにオールブラックスのアーロン・スミスとボーデン・バレットの HB 団、南アフリカの FL ピーターステフ・デュトイの 3 人がやってきます。東芝ブレイブルーパス東京には、オールブラックスの司令塔リッチー・モウンガと、年間最優秀選手に選ばれたシャノン・フリゼルが。神戸コベルコスティーラーズには、同じくオールブラックスのブロディ・レタリックとアーディー・サヴェアが。東京サントリーサンゴリアスには、南アフリカの快足 WTB チェスリン・コルビとウェールズの BK ガレス・アンスコムが（後日、オールブラックスの主将サム・ケインの入団も発表されました）。その他にも、南アフリカの SH ファフ・デクラークが横浜キヤノンイーグルスで、同じく南アフリカの FL クワッガ・スミスが静岡ブルーレヴスでプレーするなど、まだまだ数多くの大物プレーヤーのプレーを生で見ることができます。

ぜひ、リーグワンの試合にも足を運んでください！

